（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　平成２６年７月２５日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4695200016
法　人　名	医療法人　玉昌会
事 業 所 名	しあわせの杜・ケアレジデンス　木もれ日
所　在　地	鹿児島県姶良市加治木町反土2156―1 （電 話）0995―62―5915
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 15 日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉２１かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私たちの法人には、リハビリと人工透析を中心とした慢性期医療を担う加治木温泉病院、髙田病院があります。それぞれの病院は、患者様の尊厳や権利を大切にし、また地域および医療・福祉施設との連携を図り、入院から在宅への一貫した医療・介護を提供しております。
法人内には病院のほか在宅サービス事業部として、当グループホーム（認知症対応型共同生活介護）、住宅型有料老人ホーム、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションなど様々な介護サービス事業所があり、医療と介護のシームレスな支援体制を構築しております。
当事業所では、利用者様一人一人にあったケアプランを作成し、個別の対応に努めております。 また職員それぞれが自己研鑽にも努めており、資格取得者も増えつつあります。
医療面に関しては加治木温泉病院と24時間体制で連携をとっており、利用者様への早急な対応が可能でご家族様にも安心いただける環境となっております。
同敷地には小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、その他介護サービス事業所が整備され、様々な介護相談に対応可能です。1か所で多様なサービスを見学でき、サービス利用にあたっての比較検討も行いやすい環境となっております。
地域住民の方々やボランティアとの交流も盛んに実施しており、利用者様の社会参加やQOL向上に繋がっております。これからも、地域に根ざした事業所になれるよう日々取り組んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

○母体病院から少し離れた閑静な住宅街の中にホームがあり、青々とした木々が立ち並び、大きなウッドデッキが設置され、法人内の方々との憩いの場として有効利用されている。また、地域交流センターも整備され、催し物等により、地域の方々との交流の場としての役割を果たしている。近隣の母体病院、隣接する小規模多機能ホームや有料老人ホーム等、集合型の複合施設として、地域と繋がりながらさらに質の高い医療・看護・介護のサービス提供が期待できるホームである。
○行政主体の災害訓練計画のモデル事業に参加予定等、加治木地区の消防・防災訓練に積極的に参加する事で、更なる地域との協力支援体制の強化に努めている。
○リハビリや訪問看護ステーションからのサービス提供、かかりつけ医・加治木温泉病院との医療連携による24時間協力支援体制が構築されている事で、医療面での充実が図られ、利用者・家族・職員の大きな安心感につながっている。
○利用者・家族の意向・希望に沿ったサービスの提供が出来るよう、日々のケアや運営推進会議・家族会から把握した意見・要望を職員全員で共有・検討・実践しながら、ケアの充実が図れるよう常に改善しながら支援を行っている。施設サービスにおいては看取りを実践する等、利用者・家族のニーズに対応したサービス提供に努めている。
○職員の資格取得に向けたスキルアップや研修会・勉強会等によるフォローアップ等の仕組みを整備して積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念「いつまでも健やかに…私たちの願いです」行動指針として「低・賞・感・微」を事業所内に掲示するとともに、朝礼においても復唱してスタッフ一同で理念の共有を行っている。法人理念とは別に、地域密着型サービス事業所として独自の理念を掲げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた上で作成された「住み慣れた地域で地域の方々とのふれあいを大切にします」等の理念を掲示している。毎日の朝礼において唱和する事で管理者と職員が事業所理念を共有し、地域に根ざしたサービスを意識したケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月隣接の地域交流センターにボランティアの方が来られ、利用者はそのイベントに参加し交流を図っている。また、ボランティアの受入れや地域の方々との交流を行っている。	自治会に加入し、地域の文化祭・夏祭り等のほか、伝統行事並びに幼稚園・中学校などの運動会への参加等、地域の一員として日常的に交流を図っている。法人内の交流センターでは、地域のボランティアの方の慰問などもあり地域との交流の機会も多い。また、高校生の実習生の受け入れや事業所独自の家族介護支援事業では「フットケアセラピー」等も実施されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や家族会などを通じ認知症の方の理解や支援について話し合う機会を設けている。職員に対しても認知症についての勉強会等を行い外部研修にも参加し認知症の理解を学んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催できており、小規模多機能ホームと合同で実施し、運営状況や行事内容を報告。委員の方々からの意見や提案をいただき、職員へ伝えサービスの改善・向上に努めている。	定期的な運営推進会議を小規模多機能ホームと合同で開催し、事業所の運営状況・活動状況及びサービスの取り組みの状況などの報告、意見交換が行われている。参加者からの意見・提案を今後のサービス向上に生かせるようミーティング・カンファレンスで検討し、日々のケアでの実践及び業務改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告や認定手続きなど市町村担当者と連絡を取っている。運営推進会議でも市職員の方に状況等の説明を行っている。	運営推進会議への参加の依頼・介護申請、困難事例の相談、市町村主体の模擬徘徊訓練の参加協力等、日頃より市町村担当者と積極的に連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、スタッフ全員が身体拘束ゼロに努めている。母体の病院で開催される身体拘束の研修会や事業所内での研修にて身体拘束ゼロ目標に日々のケアに取り組んでいる。	関連のマニュアルは整備され、全ての職員の理解のもとで身体拘束ゼロを目標に日々のケアに努めている。また、施設内において玄関並びに居室の施錠、言葉による拘束等がないように、ゆとりのある人員配置のもと安全に留意して見守りを行っている。法人内での身体拘束の研修会や施設内の勉強会等も積極的に実施され、身体拘束をしないケアについてのスキルアップに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するマニュアルを作成。同法人からの情報やメディアの情報等から知り得た事例を朝礼やミーティング等で伝達し、職員全員への注意喚起や指導等行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	母体の病院で開催される倫理、権利擁護に関する研修会に参加し、なるべく多くの職員全員が参加できる勤務体制や参加者からの申送りにて職員全員が理解できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や同意書をいただく際は十分に時間をかけて説明を行い、利用者や家族が理解・納得した上で行っている。また報酬改定の際にも利用者、ご家族へ説明し同意した上で契約を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケートによる満足度調査を行っている。アンケートを集計・分析し、結果はそれぞれのご家族に書面で配布している。要望・不満が記入されている際は迅速に対応し業務改善に努めている。家族会を実施しておりその場でも話し合える場を設けてある。	家族会等により要望・意見の把握に努め、管理者・職員が検討して業務改善等ににつなげている。また、アンケートによるサービスの満足度調査や意見箱の設置などで利用者・家族等の意見の反映を図っている。面会時の家族からの相談・意見にも耳を傾けサービスの質の向上に努めている。外部へは利用者個々の身体状況報告書とホーム便りを定期的に郵送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティングで職員から意見を聞く機会を設けている。法人内でも毎月1回、在宅事業所の管理者が集り、各事業所の報告や運営に関する意見・提案・活動内容を話し合う機会が設けられている。月１回事業所ミーティングを開催し、スタッフからの意見や提案事項を現場に反映できるように取り組んでいる。	管理者は朝礼や月1回のミーティング等を利用して、職員から運営に関する意見や提案を聞く機会を設け事業所の運営に反映させている。また、管理者は申し送りノートの形式を工夫し、職員からのサービス・運営に関する意見等をいつでも収集できるように体制を整え、事業所の運営に有効に活かせるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎年、年2回人事考課を実施している。職員の個別面談においてそれぞれの個人目標や計画などを聞く機会を持ち、それぞれに役割を持っていただき、職員の人材育成やスキルアップに繋げていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加。研修会に参加が難しい職員にも勉強する機会がもてるように、研修ＤＶＤ鑑賞や資料を見て研修報告書を書いてもらうシステムを作っている。また事業所内での勉強会を設け、学びたい内容を各々で考え一緒に学べる環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姶良・伊佐地区グループホーム協議会に加入しており、霧島市グループホーム協議会と合同で進捗状況や研修に関して、またブロック研修会や同業者との交流に参加している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には必ず在宅や病院等に訪問し、本人の安心を確保するための関係づくりとアセスメントを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、管理者と計画作成担当者が家族との初期面談において要望や不安なことを確認し、安心して利用できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が初期のアセスメントにおいて必要としている支援を見極め、本人と家族のニーズに応じたプランを作成し、個別のサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれが出来る役割を見つけ、職員とともに生活の役割を一緒になって楽しみながら行っている。人生の先輩としての尊厳を大切にし、職員が教えてもらう機会もある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には随時連絡や相談しながら本人を一緒に支えていく機会をもっている。月に1回、事業所独自の通信や最近の様子をまとめた文書を作成し家族に配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会はもちろん、親戚や馴染みの人と会える機会の確保に努めている。また住みなれた地域内の馴染みの商店街に出向くことで良い刺激となり思い出話をしてくださることもある。	アセスメント時や初回インテーク時の生活歴等から、利用者のなじみの人物・場所への把握に努め、出来る限り関係性が継続・持続出来るよう支援に努めている。地域社会とのつながりが保てるように地域交流センターでの催しへの参加や、家族・親戚・知人の訪問、外出支援等を頻回に行う事で利用者に自宅と同じ生活を提供出来るように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関係性悪化の際は、必要に応じて席を調整し良好な関係が保てるよう努めている。 またリビングでの団らんや集団体操、レクリエーション等で関わり合いが出来るよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても入院先に出向き現在の様子や会話などを大切にしている。また、ご家族様からの相談にも随時応じている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりから希望や意向などを聞き、それらの情報については朝のミーティングで情報を共有している。	日々のケアや行事等の関わりのなかで、利用者の言葉や表情・しぐさから思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者については、家族・職員間で検討・実践・評価を繰り返しながら、本人本位のよりよいサービスになるよう努めている。うつ症状の見られる利用者についても、精神科受診や孤独感を軽減する声かけや生活に寄り添い関わりを増やす事で改善された事例もあり、利用者個々の気持ちを大切にしながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族から、これまでの暮らしの状況を聞き、馴染みの生活が継続できるよう努めている。情報の中にはセンター方式（家族版）を使用し、家族の思い、本人の生活史、元気だった頃の暮らし方などの情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを個別記録に残し、その中で心身の状態や個別の能力について記載している。また、役割を持っていただき出来る能力の継続や低下の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成やモニタリングを行う際はケア会議を開催し、現状の課題や今後の目標について話し合いを行っている。また家族や医師からの情報も踏まえて検討を行っている。	利用者・家族の意向・希望を踏まえた上で、主治医（かかりつけ医）・看護スタッフ・介護スタッフ・計画作成者等がチームとなり、ケアプランを作成している。サービス担当者会議やモニタリングを繰り返しながら、必要時はプランの見直しを行い、現状のケアに即した介護計画となるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきや工夫については個別記録に記入し、毎朝のミーティングにおいてもそれらの情報について報告を行い情報共有の強化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや変化にいち早く対応し、家族からのニーズにも対応できるよう日々支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアが併設する施設に来所される為、一緒にイベントに参加し、日々の生活と違う楽しみを持つ機会がある。また、事業所独自でボランティアを招き一緒に楽しめる環境づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の意向に沿った医師・病院を選んでいる。当事業所は医療連携体制をとっており、24時間いつでも受診できる体制となっている。また定期受診に関しては職員が受診支援を行っている。	本人・家族の希望を大切にし、かかりつけ医への受診支援に努めるとともに、加治木温泉病院の医師との連携で24時間の協力支援体制が構築されている。また、かかりつけ医の訪問診療が開始されている事で、適切な医療が受けられる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の母体病院から看護師が訪問し、利用者の健康状態を管理している。また事業所内にも看護師がおり、病院の看護師に対して、各利用者様の身体の状況や相談等を行い医療面に対しての連携強化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は管理者または計画作成担当者が訪問し、医師や看護師に情報提供を行い、情報交換・相談に努めている。医師に対して入院の期間や治療方針等の情報をいただき早期に退院が可能かどうかの判断を聞いている。早期退院が可能であれば入院中に訪問し、現状を聞きながら再入所へと繋げられるよう病院関係者との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で看取りについての話し合いを開催。事業所で出来る事を説明し、看取りに入る際の手順や看取りの現状等の報告を行っている。昨年は訪問看護と連携を図り、事業所内での看取りも実施した。今後も看取りについては個別に話し合う機会を設け、緊急時や延命の対応等継続して検討していく。	入所前に重度化や終末期に向けた方針について、本人・家族に事業所でできる看取り等を含めた対応の説明を行い同意書を頂いている。かかりつけ医（主治医）とは24時間体制での医療協力支援体制を整えている。適切な医療・看護・介護が提供出来るよう事業所としての取り組みの方針を職員全員が共有し、かかりつけ医や加治木温泉病院の後方支援のもとでチームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	分からない事等はマニュアルを読み直し、急変や事故発生においての研修等に参加し、知識不足の改善に努めている。また消防署が行っている救命救急講習会にも参加。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の立ち会いのもと訓練を実施している。地域との協力体制のためにも消防訓練の実施状況を運営推進会議で報告している。また、地域の消防訓練に参加し地区としての動きを学べる環境となっている。	すべての災害を想定した年2回の消防訓練を法人内で合同実施して運営推進会議で報告している。非常災害時の備蓄については、法人内に3日分の蓄えがあり、備品や自動通報装置・スプリンクラーの設置等も整備されている。AED等の救急救命の研修会や行政主体の災害訓練計画のモデル事業への参加予定等、地域の消防・防災訓練に積極的に参加する事で、更なる地域との協力支援体制の強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の行動指針「低・賞・感・微」 低：すべてに謙虚な気持ちで接する。 賞：お互いを思いやり敬意を払う 感：すべてに感謝する 微：微笑を添えて態度で示す 職員一同、利用者の尊厳を大切にして行動するよう努めている。	「低・賞・感・微」の法人指針のもと利用者に対して人格を尊重し、自尊心やプライバシーを傷つけないような、声かけやサービス提供に努め、個々の状況に沿った支援に取り組んでいる。法人内での接遇や個人情報に関する研修等にも参加して、利用者の尊厳についての理解を深め、より質の高いサービスの提供につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で会話をする時間を出来るだけ多くとるようにし、本人の思いや希望を聞き、意向に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、利用者様を中心としたケアを大切にし、共通のサービス（入浴などの日常生活の援助）においては必ず本人の意向を聞いたうえで行うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の暮らしの中で利用者様ごとの心身の能力を見極め、おしゃれをする機会や衣服を選んでもらうなどの機会を作っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見や盛り付け、片付けなどを利用者一人一人の能力にあったことを見極めながら生活の役割のひとつとして実施してもらっている。	食事に関する嗜好調査を実施し、行事食や外食等の楽しみにつながる工夫や、季節の野菜や家庭菜園の野菜を利用した料理の提供とともに、食事の味見や盛り付け及び片付け等、利用者の食事動作能力の把握にも努めながら、安全に楽しく食事ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて水分・食事量をチェックし、摂取できているか把握している。状況によって主治医に報告し、点滴の指示や家族に補助食品購入の承諾をもらうなど随時対応を行っている。嚥下障害がある方に対しては形態別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後口腔ケアを行っている。職員は口腔状態を把握し、歯科受診が必要な際は家族に報告し早期対応に努めている。入れ歯の方は洗浄剤で毎日洗浄を行っている。舌苔のある方は舌ブラシでケアを行っており清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェックを行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導で利用者様全員がトイレで排泄ができるよう支援を行っている。また主治医には排尿の状況を定期的に報告し、尿に異常がある時は随時指示をもらって早期対応に努めている。	排泄パターンを把握し、生活リズムに合わせた支援を提供し、セルフケアの充実を図ることで、失禁やオムツ使用の軽減となり、結果、排泄の自立支援に向けた取り組みが出来ている。また、排泄については排尿・排便コントロールを含め、異常時等、主治医との医療連携を図り、サービスの向上が図れるように取り組んでいる。失禁者やトイレへの声かけについては、細心の注意を図り、羞恥心や自尊心の侵害とならないように配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。食事・水分摂取状況を照らし合わせながら、主治医の指示の下、緩下剤を使用し排便のコントロールを行っている。また腹部のマッサージを行い排便を促している。運動に関しては、個別に運動や集団体操など実施している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調などを考えながら行っている。また声かけを行い、本人が入りたいという意思の確認のもと入浴をしていただくよう支援している。	週3回の入浴を実施し、安全に入浴出来るよう身体状況に合わせた入浴介助を提供している。入浴時間については、特定せず、入浴拒否の利用者には声かけの工夫で対応し、身体状況の悪化時には清拭、皮膚疾患があれば軟膏塗布など適切に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動により覚醒を促し昼夜逆転しないよう支援を行っている。しかしその日の睡眠不足等により気分がすぐれないときは休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個別記録・服薬台帳それぞれにつづっており、いつでも見れるようにしてある。作用・副作用・用量も記載されていている。頓服に関しては受診記録簿に記載し、申し送りで情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式（家族版）を使用し、本人の生活史、元気だった頃の暮らし方などの情報を把握し、日々の生活の中で、役割や楽しみ、気分転換できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物やドライブなど外出する機会を作り、本人の希望にそった支援を行っている。またご家族や馴染みの方が利用者と一緒に外出ができるように協力・支援を行っている。	日常的な近隣散歩の他、月1回の買い物や病院受診、花見や初詣、そうめん流しやドライブ、文化祭等の行事などの外出支援も家族・地域の人々と協力しながら実施し、利用者の外出の機会を多く設けている。また、家族や馴染みの方々との外出の支援も出来る限り行っている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルト販売員の来所時や外出の際、事業所で預かっているお金を本人に渡し使いたいときに使えるよう支援を行っている。また買い物や外食に行った際も同様に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話をしたいという時は、職員が相手先に電話をかけやり取りができるよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外の設備に関しては過ごしやすいよう配慮されている。外には落葉樹もあり鳥のさえずりや季節感を味わえる環境になっている。3施設がウッドデッキで繋がっており、すぐに中庭に出れるような作りとなっている。	大きなウッドデッキが、地域・外部との交流の場としての役割を果たし、季節を感じられる共有空間となっている。また、施設内は木目調で暖かい印象があり、トイレ・浴室は、利用者がすぐに分かるよう壁紙で色鮮やかに区別されており、台所はカウンターキッチンで職員と利用者が気楽に会話できるような配慮がなされている。居心地のよい共有空間となるように多くの工夫が感じられる作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置に関しては、利用者様同士やや利用者様とスタッフで話し合い、みんなが納得いく配置になっている。 一人一人が好きな時間に好きな場所でくつろげるよう、共用空間の様々な場所に椅子を用意してある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用されていたタンスや馴染みの物を持っていただけるよう家族に説明を行っている。本人が着慣れた衣類や馴染みの物を持参して頂いている。	居心地よく過ごせるよう、居室は利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、利用者自身の生活の場として家族と協力しながら自由にレイアウトする事で、ゆったりと快適に生活できるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーとなっている。廊下は車椅子の方同士がぶつかることなく行き来できる幅となている。すべての個室には電動ベッドが備え付けであり、利用者ごとに高さ調整し個別にあったものとなっている。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない